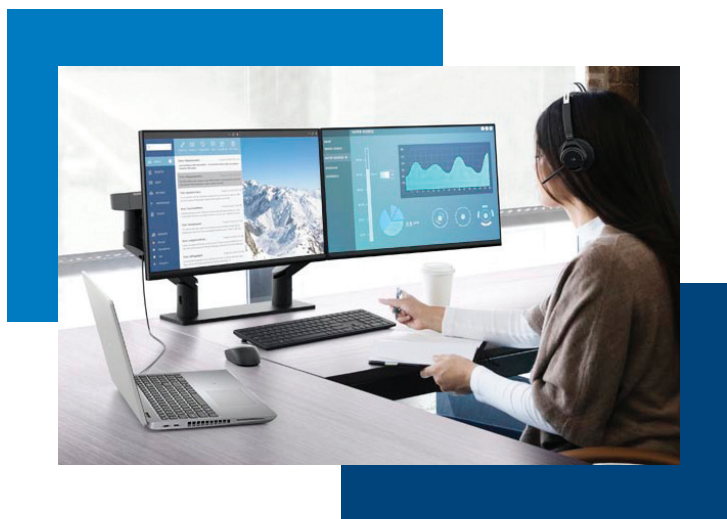


## 優れた俊敏性、可視性、拡張性を備えたネットワーク

team.blueはEnterprise SONiC distribution by Dell Technologiesにより、本番環境向けに強化されたフル サポートでエンタープライズ クラスのネットワーク ソリューションに移行しています。



お客様のプロフィール

**team.blue**

デジタル サービス | ヨーロッパ



「SONiCはネットワーキングの未来だと考えています。」

**Michael Munk Lassen氏**

team.blue、北欧地域テクノロジーインフラストラクチャ担当責任者

## ビジネス ニーズ

team.blueは急速に成長しているマネージド サービス プロバイダーであり、より柔軟で信頼性の高いオープンソース ネットワーク ソリューションに移行する必要がありました。

## ビジネス成果

- 自動化されたintentベースの安全なコンテナ化ネットワーク
- ビジネスの成長をサポートする拡張性の高いソリューション
- TCOの削減
- ネットワーク テレメトリーによる可視性と認知度の向上

## ソリューションの概要

- Enterprise SONiC Distribution by Dell Technologies
- Dell PowerSwitch Z9264F-ONおよびS5200-ONシリーズ スイッチ
- Red Hat® Ansible®ベースのネットワークオートメーション

team.blueは急速に成長しているマネージド サービス プロバイダーであり、ヨーロッパ大陸の10か国以上で事業を展開し、これを全世界に拡大しようとしています。現在、1,700人の従業員を擁し、顧客は250万を超え、そのほとんどが中小規模の企業や事業者です。

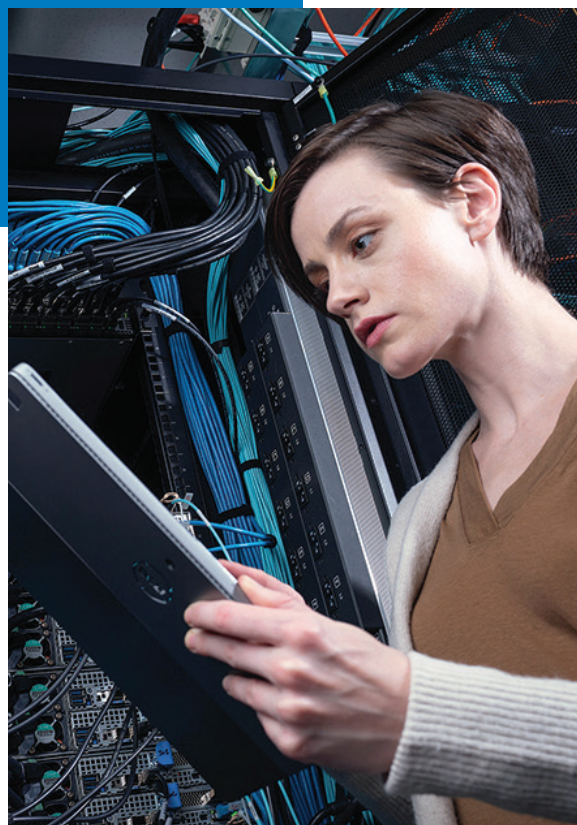
team.blueは、Combell Group、TransIP Group、Register Groupといった、2019年に行われたいくつかの主要な合併によって生まれました。ここ数年は、強力なデジタル サービスの基盤となるプラットフォームの構築に注力しています。同社はお客様のニーズを上回る多様な製品、高度な専門技術、クラス最高レベルのローカル サポートを提供しています。

## さまざまなネットワークに対する要望

今日の多くの組織と同様に、team.blueの既存のネットワークは独自のテクノロジーに基づいて構築されていました。そのネットワーク ファブリックは比較的安定していましたが、柔軟性や制御性はそれほど高くありませんでした。team.blueは、前進するために何か新しいものが必要だと考えていました。本質的には、テクノロジー スタックを最適なコストで完全に制御し、ベンダーロックインを回避できる、今までとは異なるネットワークです。

独自のソリューションがもたらす落とし穴を避けるために、team.blueはオープンソースとサードパーティー ベンダーの選択肢を検討し始めました。デル・テクノロジーズとの提携を開始した理由は、オープン ネットワーキングにおける定評とリーダーシップです。同社は、オープンソース ソリューションへの関心が高まるにつれ、SONiC (Software for Open Networking in Cloud)への取り組みに注力し始めました。「SONiCはネットワーキングの未来だと考えています」と、team.blueの北欧地域テクノロジーインフラストラクチャ担当責任者であるMichael Munk Lassen氏は言います。「SONiCはMicrosoft®から生まれ、継続的にメンテナンスとアップデートが行われ、Microsoft Azure®やその他の大手クラウド プロバイダーで使用されています。」

デル・テクノロジーズがSONiCのビジネス向けディストリビューションの開始と、そのソリューションに対するエンタープライズ サポートを発表したとき、team.blueは必要なものはこれだと考えました。「ほぼ全員が「私たちにこれは必要だ。さあ、始めよう！」と言いました」とLassen氏は言っています。



「デル・テクノロジーズは、私たちが SONiCを自信を持って運用できるように、エンタープライズ ソフトウェア機能とサポートを提供してくれました。」

**Michael Munk Lassen氏**

team.blue、北欧地域テクノロジーインフラストラクチャ担当責任者

## オープンテクノロジーの展望

その発表が行われる前、team.blueは既存のネットワーク ファブリックの制限に限界を感じていました。「使用していた製品の学習曲線は困難であることを示していました。俊敏性が低く、私たちが必要とする拡張性もありませんでした」とLassenは言います。

可視性がないことも問題でした。「それはブラック ボックスのようなものでした」と、Lassen氏は付け加えています。「トラフィックはある場所に入って別の場所から出てきますが、その間に何が起きているのかまったくわかりませんでした。本質的に、私たちには何も見えませんでした。」

同社は、一步離れて、ネットワーキングの観点から本当に必要なものを見つけ出すことにしました。そして彼らは、team.blueに必要なものは、より優れた柔軟性と制御性を備えた信頼性の高いプラットフォームであると判断したのです。自分たちに必要なものは、オープンソース、より優れたテレメトリー機能、そしてエンタープライズ機能セットであると彼らは考えました。移行を通じて支援してくれる、信頼できるパートナーのサポートは思いがけないメリットでした。

また、デル・テクノロジーは、ディストリビューションのエンタープライズ サポートだけでなく、機能面でもソリューションに明確な価値をもたらします。「SONiCへの移行を開始したとき、SONiCのオープンソース実装では、マルチシャーシ リンク アグリゲーション(MLAG)のようなものがサポートされていませんでした」とLassen氏は言います。「しかし、デル・テクノロジーは、私たちがSONiCを自信を持って運用できるように、エンタープライズ ソフトウェア機能とサポートを提供してくれました。」

Enterprise SONiC Distribution by Dell Technologiesにより、Lassen氏とそのチームは予測可能なハードウェアおよびソフトウェア ソリューションを手に入れ、特定のエンタープライズ要件に優先順位を付けることができるようになりました。

## 制御性、拡張性、サポートの強化

オープン ネットワーキング ファブリックは、制御性を高めるように設計されています。team.blueにとって、それは自分たちのやり方で前進することを意味します。オープンソース テクノロジーは、新たなレベルの自由と、その意味での投資保護を提供します。

彼らは、SONiCを「非常に興味深い」と考えています。このテクノロジーはすでに現場で実証されており、同社はその規模と機能を活用できることに満足しています。「APIベースのオーケストレーション、テレメトリー、そしてこれらすべてが可能であることは、私たちにとって非常に重要です」とLassen氏は言います。「それを可能にするベンダーは数多くあり、SONiCに限ったことではないことはわかっています。ただ、一部のベンダーが他社より難しくすることを選んでいただけです」と彼は付け加えています。

その点で、デル・テクノロジーは、オープン テクノロジー、SONiC ディストリビューションに組み込まれた拡張機能、エンタープライズレベルのサポートを通じて、物事を可能な限り簡単にしたいと考えています。

デル・テクノロジーなら、team.blueはSONiCから必要なものをすべて得られます。たとえば、Lassen氏は、今では完全に制御できるようになったことに感心しています。「SONiCの違いは、その始まりからAPIベースであるため、SONiCでできないことはほぼないという点です。」

同様に、拡張性はteam.blueの優先事項ですが、デル・テクノロジーならSONiCの拡張性を簡単に活用できます。「デル・テクノロジーのハードウェアは、そのスケールを拡張できます」と、Lassen氏は言います。「そのことにとっても感心しました。」デル・テクノロジーは、他社ができないことを実現できます。

team.blueは、テレメトリー エクスポートからカスタマイズしたモニタリング機能を構築する上で、ファブリックのセットアップの容易さ、プロビジョニングの自動化、高い柔軟性という点でも、すでにメリットを実感しています。

SONiCが素晴らしい新技術であるという事実も、team.blueに有利に働いています。「最新のテクノロジーを使用することで、見込み顧客にとって当社がより魅力的に映ります。これは、当社が事業を展開している競争の激しい市場を考えると非常に重要です」と、Lassen氏は付け加えています。



## 適切なパートナー

実装と移行は、デル・テクノロジーズのアカウント チームとサポート チームの支援により、比較的早く、簡単に行うことができました。SONiCはオープンソースであるため、複雑になる可能性があることはLassen氏も認めています。「デル・テクノロジーズがサポートし、迅速に進めてくれたのは素晴らしいことでした。」実装は約1か月、初期移行はわずか1週間で完了しました。また、同社は本番環境に直接移行しました。「SONiCが大規模に実証済みであるという事実と、デル・テクノロジーズのチームの取り組みにより、私たちはSONiCが本番環境に対応していると確信できました」とLassen氏は言います。

team.blueは、独自で行うことは望んでいないことを認めています。「当社は中規模のホスティング会社ですが、このテクノロジーの自社開発やサポートを望むにはまだ程遠い状態です」とLassen氏は言います。「テクノロジー スタックの構築に投資するよりも、日常業務の自動化に重点を置きたいと考えています。そして、何か問題が発生したときは、そのテクノロジーの専門家に連絡できるようにしておきたいのです。」

デル・テクノロジーズとの提携を選択したことで、状況が一変しました。「私たちは、デル・テクノロジーズのアカウント チーム、製品管理スタッフ、エンジニアリング スタッフ、サポート スタッフのコミットメントとエンゲージメントのレベルに感銘を受けました」とLassen氏は言います。これが、デル・テクノロジーズがteam.blueに販売したものであり、彼らを満足させ続けているものです。

## 前進するための自信

現在、team.blueは、スパイン レイヤーでDell PowerSwitch Zシリーズを使用し、リーフ レイヤーまたはトップ オブ ラックでMCLAGとVXLAN EVPNを備えたDell PowerSwitch Sシリーズを使用して、2層のリーフ/スパイン アーキテクチャを運用しています。

同社はまずソリューションを検証するため、10ラックの設置から始めました。「これにより、前のソリューションからDell Enterprise SONiCに移行することができました」とLassen氏は言います。「一方で、初日から大量のワークロードを処理することも可能になりました。」

次に同社は、Dell PowerSwitchネットワーキングに基づいて、20ラックのデータ センターを新たに導入しました。team.blueは、40ラックを備えたデータ センターをさらに立ち上げる予定で拡張を続けています。移行全体は、Enterprise SONiC Distribution by Dell Technologiesに基づいて行われます。「今後数年以内に5つのデータ センターのすべてのスパインリーフのPODをSONiCに置き換える予定です。ラックの総数は100を超えるでしょう」とLassen氏は付け加えています。

「デル・テクノロジーズは、製品に対する圧倒的な自信を与えてくれただけでなく、より早く簡単に前進できるようにサポートし、それを実現させてくれました。彼らのサポートがなかったらこれほど早く簡単ではなかったでしょう。私たちは、1年近くかかるところをほぼ半分で成し遂げることができました。これは私たちにとって非常に大きなメリットでした。」

「SONiCの違いは、その始まりからAPIベースであるため、SONiCでできないことはほぼないという点です。」

**Michael Munk Lassen氏**

team.blue、北欧地域テクノロジーインフラストラクチャ担当責任者